

インフラミュージアム設置(平成 29 年 8 月 21 日設置記念式典を実施)

【平成 29 年 8 月 22 日 岐阜新聞】

「インフラミュージアム」完成

岐阜大にトンネルや橋の実寸モデル

1940年代から現在の工法 技術者育成に活用



「インフラミュージアム」を見学する式典出席者ら＝岐阜市柳戸、岐阜大

岐阜大(岐阜市柳戸)が構内に整備していた「インフラミュージアム」の設置記念式典と除幕式が21日、現地で行われた。橋やトンネルなど土木構造物の基本構造などを、実物大のモデルを見ながら学ぶことができる設備。インフラの維持管理に関わる技術者の育成に役立てる。
(稲木悠司)

同大正門横の南駐車場に、トンネル、鋼橋、コンクリート橋の三つのモデルを設置した。本年度中に盛り土モデルが完成する。モデルには1940年代から現在までの工法が組み込まれており、工法の変化なども学ぶことができる。
式典には、森脇久隆学長をはじめ、整備に協力した企業などの関係者約200人が出席。除幕をして完成を祝った。
同大工学部付属インフラマネジメント技術研究センターの沢田和秀センター長(49)は「普段見られない古い工法を間近で観察できるのが強み。(同大がインフラ維持管理者を養成する)社会基盤メンテナンスエキスパートの学習はもちろん、企業の研修などでも活用してほしい」と話した。

【平成 29 年 8 月 22 日 中日新聞】

トンネルや橋 実物展示

岐阜大にインフラミュージアム



展示された鋼鉄の橋桁やコンクリート橋を見学する関係者ら＝岐阜市柳戸の岐阜大で

トンネルや橋などの場の一角の幅約五十メートル、奥行き約八メートルの展示スペースに、コンクリート橋や鋼鉄の橋桁、トンネルの断面を展示。同教授によると、古い橋を大学構内に移設するのには全国的に珍らしいという。(井上仁)

技術者養成、新技術開発の題材などにも活用してきたい」と話した。

同教授によると、古い橋を大学構内に移設するのには全国的に珍らしいという。(井上仁)

【平成 29 年 8 月 24 日 建通新聞】

インフラミュージアムを設置

岐阜大 C I A M



岐阜大学の南駐車場に「インフラミュージアム」が設置された。岐阜大学工学部付属インフラマネジメント技術研究センター(CIAM・沢田和秀センター長)は21日、岐阜大学で設置記念式典を開いた。写真。インフラに関わる人材育成の加速を狙い、臨

床教育用教材として学内にトンネルや橋梁、盛土(2017年度内に完成予定)の構造などが分かるモデルを設置し、活用してほしい。また、MEの養成講座などのリンクも考えている」とあいさつした。

また、沢田和秀センター長が、設置に至る経緯やモデルの活用方法などを説明した。

テープカットを終えると、参加者は設置されたモデルを熱心に見学した。

でかつ インフラ模型

岐阜大学のインフラミュージアムにあるコンクリート橋の模型。いずれも岐阜市柳戸



トンネル・コンクリ橋・鋼橋…岐阜大にミュージアム

トンネルの模型



実物大のトンネルや橋の一部を再現し、模型教材として展示する「インフラミュージアム」を、岐阜大学（岐阜市柳戸）が国内の大学で初めて完成させた。1960～70年代の高度経済成長期に造られたインフラ設備の補修・整備が課題となる中、当時の現場を知らない人がその構造を理解する一助になっている。

高度成長期の設備 構造理解の一助

1. 内閣府の戦略的イノベーション創造プログラムの助成などもあり、大学の東側駐車場の幅約50メートル、奥行き約15メートルの敷地を利用して、今夏に完成、一般公開された。現在、トンネル、コンクリート橋、鋼橋の計三つの模型があり、今年度中には新たに盛り土模型も完成予定だ。

トンネルは、輪切り状の断面模型（幅4.5メートル、奥行き3.5メートル）を展示した。土圧を矢板で支える「矢板工法」と、吹きつけコンクリートとボルトで支える「NATM工法」の違いを観察することができる。コンクリート橋は全長10.25メートルの橋に使われることが多い「PC橋」の一部（幅4.4メートル、全長15.6メートル）を設置。鉄筋・ボルトを使った内部構造だけでなく、橋の裏側や、橋を支えるコンクリートの部分を直接触ることができる。

センター長の沢田和秀教授（地盤工学）によると、安全な場所です実物大の教材を用いることができるのが利点で、すでに大学院生の課題学習や、土木・建築関連企業の社内研修などに利用されている。複数のインフラ建造物が整う施設は国内の大学にないといわれ、沢田教授は「身近に実物があるので、すぐ現場に生かせる資料として役立つ」と話している。

（室田賢）